

主体的な学びの実現

秦野曾屋高等学校 2年論理国語の例 (令和5年6月~7月)

- ◆ 生徒が主体的に学ぶには、生徒に見通しを持たせることが必要。
- ◆ そのため、授業者は単元を広く見渡して、到達目標を設定。そこから、「逆算的」にDAY1からの授業をつくっていく。
- ◆ 教員に「見通し」があると、自然とそれが生徒に伝わる。

単元 対比をとらえる（デジタル地図と紙の地図を対比するといった内容）

目標 対比によって物事の特徴が明確になることを理解する。

DAY 1

デジタル地図と紙の地図を比較し、それぞれの特徴、利点・欠点を考える。

指示書

- ① デジタル地図と紙の地図をそれぞれ使って、修学旅行で行く北海道のコースと見学地を調べる。
- ② デジタル地図と紙の地図それぞれの特徴、利点・欠点をジャムボードに入力する。そして、デジタル地図によって「できるようになること」、「できなくなること」を考える。

授業の目標を示す。
指示を明確に出して、時間を区切る。

- 指示書を生徒に渡した。
- 「それじゃあ、3時10分まで。(終了5分前)」と時間を区切った。
- **すると、生徒が、ぐっと身を乗り出して机に向かった。**



DAY 2

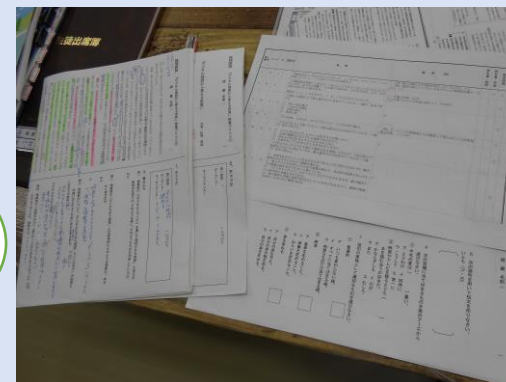
第1段落の読解。本文の音読、プリントの設問に答えていく。

DAY 1の活動の後で、生徒は本文の内容を身近に感じている。



「6分間の読解→設問に答える」のサイクルを3回行う。

教卓の上には
教員の単元指導計画



DAY 3

この単元の内容は第1段落に「凝縮」されている。第1段落は非常に重要である。

そこで、第1段落の理解をさらに深める活動をする。ここでは、「地図を広げることは知識を広げること」について意見を出し合う。

指示書

- ① 5種類の地図を年代順に並べる。そして気づくことを共有する。(宗教的な意味合いの地図がある。当時の人々になじみのないアメリカ大陸の形が大きく変形している。)
- ② 別の3種類の地図を比較する。そして気づくことを共有する。(地図を使う人のいる場所が地図の中心になる。ヨーロッパであったりオーストラリアであったり。)



DAY 4

第2・3段落の読解。本文の音読、プリントの設問に答えていく。

デジタル地図の登場。そして、それに伴って、私たちが失いつつあるもの…

- 生徒にはゴールが見えている。
- だから、主体的に取り組む。



- この時間は読解が終われば終了。
- 大部分の生徒が読み終わったところでちょうどチャイムが鳴った。



DAY5

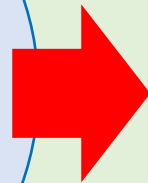
対比を使ってオリジナルの意見文を書く。

論題「新しい便利なもの（機器や機能、サービスなど）が人々の能力や生活に与えた影響」

- 例文を参考にする。
- 5文で書く。（1文目と5文目の内容は同じになる。）

設定

「新しい便利なもの」を何に設定するか。



- 1文目 「新しい便利なもの」によるマイナスの影響とは。
- 2文目 以前に使われていたものの特徴は。
- 3文目 「新しい便利なもの」が「登場」したことで、どう変わったか。
- 4文目 そのことによって、何が起こったか。（1文目の理由になるように）

<生徒に配付したワークシート>

対比を使って意見文を書く

テーマ「新しい便利なもの（機器・機能・サービス等）が人々の能力や生活に与えた影響」

例文

- ①私はデジタル地図が登場したことで、人々が地図を主体的に読みこみ、全体を見わたすような想像力を失いつつあると考える。
- ②紙の地図は、地図帳を広げて地図を読むことによって、世界についての知識やイメージを広げることができる。
- ③一方、GPS が搭載されたデジタル地図は、地図上に現在地が表示され、自分に合わせて地図が動くため、地図を解読する必要がなく、人々は道に迷うことがなくなった。
- ④しかし、デジタル地図を使うと現在地とその周辺だけを見るようになるため、人々の視野が狭まり、世界についての知識やイメージが広がらなくなってしまう。
- ⑤よって私はデジタル地図が登場したことで、人々が地図を主体的に読みこみ、全体を見わたすような想像力を失いつつあると考える。

1、設定 ※自分で決める（地図以外）

- A 新しい便利なもの 例 デジタルの地図
- B それ以前に使われていたもの 例 紙の地図

2、構成メモ

- ①新しい便利なものが人々の能力や生活に与えた**マイナス**の影響（問題点を考える）

- ②以前使われていたものの特徴、できること

- ③新しい便利なものの特徴、できること

- ④新しい便利なものの欠点、問題点（①の理由になるように）

私はメールが登場したことで手紙の手書きの温かみや文章構成能力、漢字能力が失われつつあると考える。メールは素早くやり取りができ複数に送れて相手の時間を拘束しない上に画像やファイルが添付できるためコミュニケーションをとるといふ面ではとても優れている。一方で手紙は自分の手で書くことによって、自分の気持ちを誠心誠意もって伝えることができ、文章構成をよく考えたり漢字などを調べたりして自分の能力を伸ばすことができる。しかし、メールはパソコンやスマートフォンなどで打ち込むために手紙本来の手書きの温かみや、特別感、漢字が自動変換されるために漢字の能力などを失ってしまう。よって私はメールが登場したことによって手紙本来の手書きなどの良さを忘れ、更には文章構成能力や漢字能力を失いつつあると考える。



私はスマートフォンなどのデジタル機器が登場したことで人々は自ら学び、それを実際に使うということをしなくなったと考える。紙の辞書は自ら本で調べ、学ぶことで、それを実際に使うことができる。更にその言葉や事柄の類義語や対義語なども知ることで、知識が広がる。一方、スマートフォンなどのデジタル機器は、たった一つの小さくて軽いもので調べたいことについて調べることができる。そのため、人々は知りたいことは大体スマートフォンがあればすぐに調べられ、問題なども解決できるようになった。しかし、デジタル機器を使うことで人々は自ら本などを使って調べることがしなくなった。そして、簡単に問題なども解決できるようになったため、自ら考えて取り組むことをすることが少なくなった。よって私はスマートフォンなどのデジタル機器が登場したことで人々に人々は自ら学び、それを実際に使うということをしなくなったと考える。

